

ミシシッピアカミミガメの餌志向性の個体差について

杉田渓翔・亀崎直樹

700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1 岡山理科大学動物自然史研究室

On the individual differences in food preferences of the *Trachemys scripta elegans*

By Keisho SUGITA and Naoki KAMEZAKI

Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama 700-0005, Japan

はじめに

ミシシッピアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* (以下アカミミガメ) は北米原産の外来の淡水ガメである。本種の食性について消化管内容物の解析を行う中で、同地点で捕獲された個体でも、消化管内容物に違いがみられた。これまでの研究では餌志向性の個体差については検討されていない。そこで、本研究ではアカミミガメの消化管内容物の解析を行うことで餌志向性の個体差を検討した。

方法

岡山市中区竹田に位置する百間川のワンド(以下百間川)、同市北区一宮笛ヶ瀬川の支流である中川の2地点で捕獲を行った。前者は2024年7月にマイワシを誘引餌としてカメ捕獲用かご罠を使用し、後者は2024年5月に徒手による捕獲を行った。捕獲されたアカミミガメは計測後解剖し、消化管内容物を採取した。サンプルは70%エタノールで固定した。

解析では、各個体の内容物内に約60%存在しているものを「主として食べているもの」として分類した。

結果及び考察

百間川では50個体、中川では20個体を捕獲した。捕獲した全個体の消化管内容物を分類したところ図1のようになった。

2地点ともにアオミドロを食べる個体が多かったが、百間川ではツルノゲイトウがそれについて多かったのに対し、中川では稲穂と稻茎が多かった。この違いはそれぞれの環境で餌資源の違いを反映していると考えられる。これはYamaji and Yano (2020) でアカミミガメは生息地に多く自生している植物を主として食べる傾向にあることに一致している。動物質において百間川では二枚貝を選択して食べる個体が確認された。また泥が内容物として取り出された個体も少数ではある。

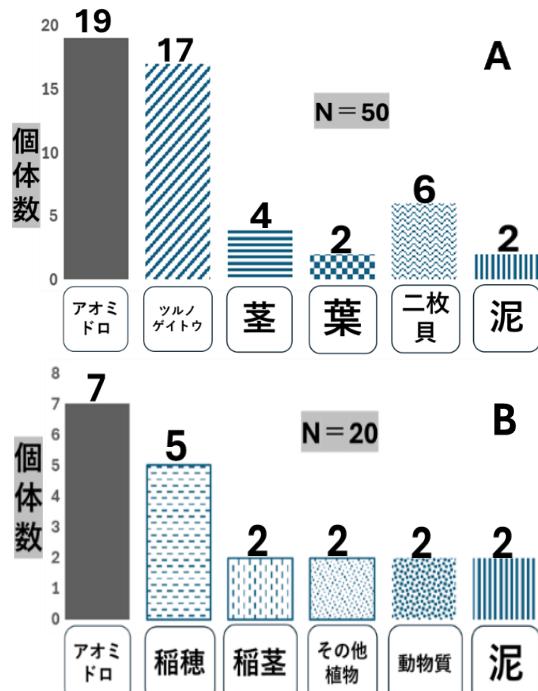


図 1. 消化管内容物の分類別個体数。A: 百間川(消化管内容物), B: 中川(腸内容物)

るが両地点で確認された。

これらの食性の違いが体サイズによるものではないかと新たに仮説が立てられた。そこで食性の分類を背甲長別に示したところ(図2), 相関は見られなかった。これは体サイズが食性に変化を与える仮説を否定するものであった。また腸内容物から泥が確認できた個体について、胃内容物から動物質が確認された。このことから泥とともに

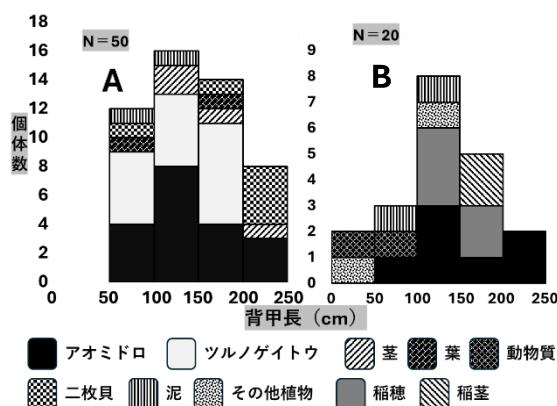


図2. 背甲長階級別の各消化管内容物の出現個体数. A: 百間川(消化管内容物), B: 中川(腸内容物)

動物質の餌を食べた後、消化吸収され泥のみが腸にのこることによって泥が内容物として取り出されると推察される。しかし、魚類では泥の中の有機物を目的として食するデトリタス食が知られており、今後、アカミミガメとの関係について検討したい。

今回の結果は、アカミミガメが主に摂餌する餌は個体によって違いがあることを示している。今後、個体間の関係なども考慮しながらさらに検討を加えたい。また、個体が継続的に同じものを志向し食べているか確認するため、内容物を胃と腸で分ける、スプライシング法を用いたサンプリングを行うなど検討が必要である。

引用文献

- Yamaji Y. and O. Yano. 2020. Feeding damage to native plants by red-eared slider turtles, *Trachemys scripta elegans* (Emydidae), in Okayama prefecture, Western Japan. Current herpetology 39 (2): 98-107.